

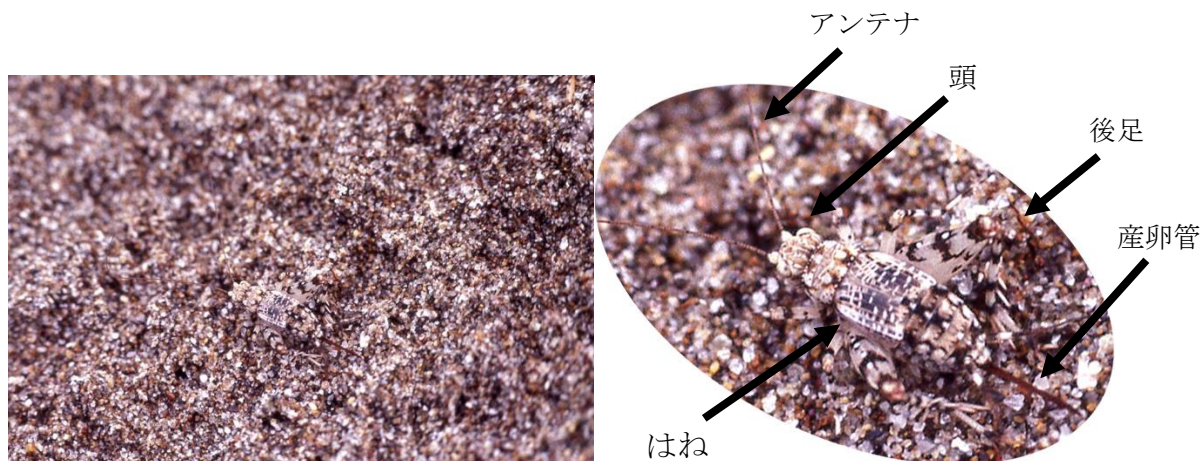
NO.415

砂にそっくり「ハマスズ」

ハマスズは、体長7mmほどの小さなコオロギ類で、夏～秋に成虫が見られます。その名のとおり、草がまばらに生えている海岸の砂丘や砂浜にすんでいます。まれに内陸部の広い河川敷の砂地にもすんでいます。

体色は、灰色もしくは淡い褐色で、褐色の斑点があり砂にそっくりです。「ビービービー…」と鳴く声が聞こえても、砂の上でじっとしていると、全く気がつかないほどです。保護色の典型的な例と言ってよいでしょう。

左側の写真を見て下さい。一頭のハマスズ(♀)が写っています。どこにいるか分かりますか。右側が拡大した写真です。これを参考に探してみましょう。



ハマスズは、隣接する石川県・新潟県にいることは分かっていましたが、富山県では、つい最近まで記録がありませんでした。富山県の海岸には、石川・新潟両県のように大きな砂丘や広い砂浜が無く、存在する砂浜も海岸浸食や護岸工事等で良好な自然環境とは言えません。そのため、富山県にはハマスズは生息していないのだろうとも考えられていました。

それが、最近、常願寺川の中流域の河川敷の砂地で見つかったのです。(海浜ではまだ見つかりません)

ハマスズは、近年では全国的に減少しており、隣の石川県をはじめ、多くの県でレッドデータブックにけい載されています。富山県でも改訂版レッドデータブックにけい載されました。

ハマスズの今後の生存を守るためには河原や海岸の広い砂地の自然環境を保全することが大切です。

自然の片隅に生きる、小さな生きものにも目を向けてみましょう。(根来 尚)